

# 令和6年度・第1回岐阜県先端科学技術体験センター 指定管理評価員会議議事要旨

日時：令和6年9月6日（金）

14:00～15:30

場所：岐阜県先端科学技術体験センター会議室

## ■出席者：15名（敬称略）

評価員：岡田 貴映、岡田 優子、高橋 信一、三宅 崇 [定数：4名]  
指定管理者：牛村 守、森井 映美子（株式会社トータルメディア開発研究所）  
五ヶ山 淳、水谷 幸次（中電クラビス株式会社）  
三浦 秀輝、安江 進、田代 学、和田沙欧里（館職員）  
岐阜県：高井 哲也、蒲 祐輔、馬田 勝利（文化伝承課）

## ■議事：令和5年度の事業報告について

### ■議事進行：施設所管課（文化伝承課）

#### ○開会

#### ○挨拶

文化伝承課 高井課長  
指定管理者 三浦館長  
牛村本部長 より挨拶

#### ○評価方法の説明

文化伝承課 担当より説明

#### ○令和5年度事業報告

指定管理者（安江副館長）よりパワーポイント資料にて説明

#### ○質疑応答

高橋評価員：入館者数が増加傾向にあることは、講座やワークショップの内容の工夫や、SNSを活用した取組の成果であり、非常に高く評価できる。  
一方で、利用者数の増加について、もう少し重視していいのではないか。岐阜県先端科学技術体験センター（以下、「SW」という。）から遠い学校は出張ワークショップに頼らざるを得ない側面もあるし、地域連携や他の科学館との連携を重視していくことは、入館者数以外の利用者数の増加に繋がる。そういった観点から、利用者数の増加というのも実績として評価されるべきである。利用者数に関する目標を設定すると同時に、利用者数についての評価をするために、資料に年度別の利用者数の推移グラフを載せてはどうか。

安江(指定管理者)：次回以降検討する。

高橋評価員：事業報告書の収支について、人件費の予算額6,490万に対して、決算額

5,709万円余りというのは、何か理由があるのか。

水谷(指定管理者)：欠員者の補充が集まらなかったのが原因。令和5年4月から欠員が生じたため、人員を募集していたが、令和5年12月まで人員が確保できず、採用決定は令和6年1月となった。その分、人件費が少なくなっている。

三宅評価員：評価項目の中で「県のイメージアップに繋がったか」という項目があるが、SWに対してどういうことを求めているのか。どのように評価すればよいのか分かりにくい。

蒲(岐阜県)：県議会において、SWの取組についての質問があり、県の方から対応について相談をした時に、一定程度は具体的に実行していただいている。そういった点では、県議会、いわゆる県民の方からのご意見を反映した取組を常にやっているという風に理解していただいてもよいのではないかと考えている。

岡田優子評価員：オンライン授業について、どのような経緯で実施に至ったのか。

田代(指定管理者)：2つ発端がある。1つ目は、学校のアンケートの「どんな講座を希望するか」という項目で、以前は「学校では体験できない実験を提供してほしい」という意見が多かったが、最近は「授業の中で教師が教えるのが難しい題材をSWでやってほしい」という意見が増えている事である。これは、若手の教員が増加し、ベテラン教員が減少しているという現状が一因にあると思われる。

2つ目は、授業の時間数の関係でSWに行くことが難しくなっている事である。

この2つの問題をクリアしようとする、当館の職員が学校に出向くか、オンラインを活用するかのどちらかになる。知り合いの校長先生とこのような話をした時に、「ぜひうちの学校でやってほしい」という話になり、試験的にオンライン授業を実施した。

三宅評価員：カガークの今後の利用に関して、取り決めや展望等はあるのか。

安江(指定管理者)：今後、夏休み企画のように、当館の事業のプログラムの中でのキャラクターの活用等を考えている。実際にこの番組を見られた方が愛知県から来館した例もある。放送局がテレビ愛知なので、愛知県が主な視聴者になるが、岐阜県でも愛知県寄りの方は視聴できるので、一定の効果があるものと考えている。

高橋評価員：夏休み企画でバッテリー電池の話が出たが、今、韓国や中国で電気自動車の火災が問題になっていると聞く。科学の面白さだけではなく、そういった危険性についても学べるようなことができたらと感じた。実験では、どうしても安全性を重視しがちだが、一方で危険性について教えることも大事だと思う。

安江(指定管理者)：今後検討する。

三宅評価員：アドバイザー委員会の欠席者が多いのは、何か理由があるのか。

安江(指定管理者)：他の会議との兼ね合いもあり、開催日を指定したところ、都合の悪い方が多くなってしまった。今後はもう少し早めに調整できるようにしていきたい。

- 高井(岐阜県)：一般団体の利用数が増加しているが、何か取り組まれたのか。
- 安江(指定管理者)：特別に取り組んだわけではない。コロナが5類に移行した反動と考えている。
- 高井(岐阜県)：一般団体の内訳はどのようになっているのか。
- 和田(指定管理者)：子供会、ツアー会社、ボーイスカウト、放課後等デイサービス等となっている。コロナ前は子供会の割合が多かったが、5類移行後は放課後等デイサービスの利用が増えている。
- 高井(岐阜県)：子供会の数は減少傾向にあると思われるが、にもかかわらず、一般団体の利用数が増加傾向にあるのは、内訳が変化してきているということなのか。
- 和田(指定管理者)：内訳は変化してきている。コロナ禍で外出を控えるようになり、子供会の活動が少なくなったように感じる。子供会が外に出なくなった代わりに、放課後等デイサービスの割合が増えてきている。
- また、ツアー会社もSWを組み込んだプランを考えてはくれるのだが、人が集まらず、催行されていない。知らない人同士が集まってバスで移動し、一緒に行動するという事に、まだ抵抗がある方が多いのではないかと。

#### ○評価表記入

評価員がそれぞれ評価表を記入。

#### ○評価員による講評

岡田優子評価員：出張ワークショップの数が増えている点は非常にありがたい。昨年度務めていた学校はバス代が出たので、SWに伺うことができたが、今年度新たに赴任した学校は予算の問題でSWに伺うことができず、出張ワークショップを申し込んだ。そうした経済的な理由で来館できない学校が一定数あると思うので、どの生徒にも均等に科学に親しむ機会を与えられるという点においても、今後も出張ワークショップを続けてほしい。

また、youtubeで動画を配信しているとのことだが、学校現場が授業で活用できるような配信を更に増やしてほしい。動画配信を知らない先生も多いと思うので、もっと周知していく必要がある。ホームページで探すというのは、よほど興味がある先生でなければやらないので、学校に直接メールして、こんな動画を配信しているというようなことを教えてくれると、より活用されていくのではないかと。

発電の実験器具を用いた実験を体験させてもらったが、先生だけであれだけのものは準備できないし、仕組みだけでなく、日常生活にどうやって活かされているのかという点も説明してくれるので、このような授業も出張ワークショップでやっていただきたい。学んだことが日常生活の中で広く活用されているから、理科はすごいんだということを、生徒達に伝えられれば思う。

総合教育センターの研修について、教職員が沢山いるのに、講座の申込者数が少ないと思う。内容はDNA抽出や光触媒、電子顕微鏡等、理科が専門外の先生方には難しいのではないかと。教員としては、実際の授業に活かせる内容を受講したいと考えているので、来年以降は、そういった内容の講座を入れていただけたら幸いである。

三浦(指定管理者)：総合教育センターの研修は、センターとして一定程度のレベルを担保しないといけないので、内容を変えることは難しい。夏休みにある程度人数が集まるのであれば、学校に出向いたり、市教研の理科部会に出向くことは

可能なので、気軽に相談くだされば幸いです。

岡田貴映評価員：私は瑞浪市在住の2児の母親である。子供が小さい時に来たことはあるが、イメージとしては、イベント時に混雑しているという印象で、休日等になっても、近所だからいつでも行けるという感覚があり、中々来館する機会がなかった。

今回の報告を聞くまで、こんなに楽しそうな施設だということを正直知らなかった。夏休み企画の電気の実験も、家族で体験できてすごくいいなと思ったので、ぜひSWに行きたいなと思った。瑞浪市在住の親御さんで、私のような人がおそらく沢山いると思う。イベントのチラシは学校からよくもらうが、私はチラシをきっかけに来館したことがない。具体的な方策はすぐには思いつかないが、SWの取組がもっと広く周知されれば、瑞浪市や近隣の市から人を呼べる可能性があると感じた。

高橋評価員：入館者数、利用者数を増やすための利用促進の取組は高く評価できる。今後は入館者数だけでなく、利用者数を更に増やしていけるような取組も頑張ってもらいたい。

テストのためだけの勉強は理科嫌いを増やすことに繋がるが、SWのような体験を中心として理科を学ぶという手法は、理科が好きな子供を増やしていくことに繋がると思うので、今後もSWが中心になって広がってほしい。

三宅評価員：インスタグラムのフォロワー限定の企画の話があったが、すごくリピーターを育てる上で効果的な手法で面白いと感じた。広く色んな人に機会を提供するのも大事だが、その分野に興味がある人の関心を伸ばすことに繋がっていくので、いい試みである。

また、大学生サイエンスフェスティバルについて、大学生にとっても、参加する小中高生にとっても、いい交流の機会を提供できており、そういった仕掛け作りとして、いい取組だと思った。

全体として、喫茶サイエンス等の企画やSNSの広報、テレビ番組との連携など、常に新しい方策を工夫して、新しいやり方を検討する姿勢が評価できる。

○閉会